

「イエス様の熱い熱い情熱」

～最後まで主に従い通す信仰を持つためには～

「わたしが天からこの世に来たのは、罪のために神から離れている人たちに、神に立ち帰らせて、救うためです。」

ルカによる福音書19章10節[現代訳]

日本の政治界の状況も、また世界の状況、特に朝鮮半島、また、イランの問題など、様々な問題が起っています。

イエス様の時代も様々な権力の影響によって、国の中は抑圧と混乱の中がありました。イエス様はそんな時代に対して毅然と立ち向かいました。それは、死を覚悟するものでした。

そして、その死と復活を通して大いなるメッセージを、弟子たちにお知らせになりました。そして、聖霊を通して、主が来られるご再臨の時までそのわざを継続するように導かれました。

混乱と抑圧の中にある時に最も必要なことは、「祈り」でした。『『わたしの家は、祈りの家でなければならない』と旧約聖書に書かれているのに、お前たちは、それを強盗の巣にしてしまっている』(46節)とお語りになられたように、何か問題や混乱があるならば、神の前に出て祈ることこそ重要であると、祈りに集中しなければならないと語られました。

主がご再臨になるときまで、どんなことがあっても私たちは主を信頼して、主に忠実である必要があります。神様を信じていても、宗教をやっている、何の意味があるか？宗教は危ない！とか言われます。キリスト教は宗教ではありませんが、そう言ったとしても世の人たちには理解はできないでしょう。たとえ、世の人々に公に受け入れられなくても、馬鹿にされても、冷たくされても、イエス様だけを信じて、イエス様だけを愛して、忠実にお仕えしていかなければなりません(11～27節のたとえ話)。

私たちの信仰がどこから始まったか、イザヤ書には、「あなたがたの切り出された岩と、あなたがたが掘り出された穴とを思い見よ。」と書かれています。私たちもザアカイのように特別に名前を呼んで救い出された存在であったことを決して忘れてはいけません。ザアカイは自分がよじ登って初めてイエス様に出会ったいちじく桑の木を大切に日々水をやりに行ったというお話を聞いたことがあります。それは決して自分のスタート地点を見失わないようにという彼の信条であったということです。

私たちも自分のスタート地点を決して見失ってはならないと思います。主の憐れみが今でも尽きることなく私たちの上に注がれていることを忘れてはいけません。主はいつでも私たちを滅ぼすことができるお方ですが、すべての人が救われるために忍耐して待ってくださるので、「よくやった。良いしもべだ。お前は小さなことに忠実だったから、10の町を支配する者にしよう。」とおっしゃっていただけるような者となれるよう、これからも祈りを中心に、励んでいきたいと願っています。